



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL84 平成31年1月
ホスピタウン合同新年挨拶会
2019. 1. 4



新しい時代のテーマ 障がい者福祉サービス、共生社会の実現に向かって

真誠会は平成元年とともに生まれ、その後、医療、福祉事業（主に高齢福祉サービス）を展開し、なかでも介護保険関連事業では米子市の多くの地域をサービスエリアとし、その内容もリーダーシップ的な存在にまで成長することができました。質的にも、二つの老健はスーパー老健となり社会の期待に応えることができるようになりました。

サービス付き高齢者向け住宅も2棟でき、介護保険関連のサービスは殆ど提供でき、また地域においては、地域包括サービスも真誠会単独で提供できるようになりました。総括すれば、平成の30年間で介護保険、高齢者福祉サービス関連では大人になったと思います。

そこで、これからの新しい時代に向かってどの様に成長するかということが問題になります。医療、高齢者福祉サービスはもちろん現在の勢いをそのままに、更により質の高いサービスを提供することですが、それに加えて今まで蓄積したエネルギー、ノウハウを利用して、今までできなかった障がい者福祉サービス事業を展開したいと思っています。

これに関してはすでに皆様も御存知のように、地域生活支援拠点となる日中サービス支援型共同生活援助（グループホーム）、通所事業所（作業所）の設立に賛同の署名をいただく活動をしました。12月という年末のあわただしい時期ではありましたが、驚くことに約1万人の皆様にご賛同の署名をいただきました。（日本海新聞に記事掲載時には8000人）

私はこの多くの賛同署名に感動し、この施設を河崎の米子ホスピタウンの隣地に建てる決意を強くし、現在、鳥取県に申請を出しております。また、単に施設の建設だけではなく、米子市における障がい者施設での中心のお世話役となる、地域生活支援拠点という機能もいただける様に米子市へ申請を出しています。

この原稿を書いているときには、施設の整備には米子市、鳥取県の許可は出ておりますが、生活支援拠点の機能についてはまだ決定をいただいております。

しかしながら、最後の関門は米子市、鳥取県ではなく、国の予算です。遅くとも新年度の予算で採択されれば米子ホスピタウンに障がい者施設ができて、一般病弱者だけではなく高齢者、子ども、障がい者（児）の皆さんが市民の皆さんと一緒に、手に手をとって、励まし喜び合い、本当の共生社会を実現したいと思っています。

障がい者福祉サービス、共生社会の実現

これが真誠会の新しい時代の大きなテーマです。



社会福祉法人 真誠会
医療法人 真誠会
理事長 小田 貢



第14回

弓浜助け合いネットワーク

～各地区における地域ケア会議、地域包括ケアの現状～

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第14回弓浜助け合いネットワークの会」が平成30年12月2日、弓浜ホスピタウンで開かれました。地域住民ら約500人が参加し、基調講演やシンポジウムを通じて、支え合う地域づくりについて理解を深めました。

【主催】米子市(米子市弓浜地域包括支援センター)・弓浜助け合いネットワーク実行委員会
 【共催】社会福祉法人真誠会、NPO法人がいなネット 【後援】米子市社会福祉協議会

基調講演

共生社会をめざして —障がい者に太陽を—

約800万人といわれる団塊の世代が後期高齢者になり、国民の4人に1人が75歳以上という超高齢社会に突入する「2025年問題」。国はこの問題を見据えた介護保険事業計画を立て、3年単位で地域包括ケアシステムの構築を進めています。住み慣れた自宅や地域で暮らし続けながら、必要に応じた医療や介護のサービスを使い、最期を迎えられる体制を目指しています。

次に問題になったのが認知症です。国は認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)を立て、認知症高齢者対策に取り組んでいます。この会ではこれまで、認知症とは何か、認知症の発見の仕方や発見後の対処、どのような手助けが認知症に必要ななど、高齢者や認知症について勉強し、話し合ってきました。会を重ねるごとに、弓浜地区には認知症に対する理解や認識が広まり、助け合いの輪が広がっています。



医療法人・社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢

すべての人が輝く社会に

演題にある「共生社会」とは、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会です。国の施策により高齢者の生活の保障は改善しましたが、社会の一員である障がい者および障がい児に対する保障は不十分です。

地域の中で障がいのある人を誰が守るのでしょうか。私がこの会でこのような話をするのは、弓浜地区が高齢者や認知症に対する助け合いの先進地であり、共生社会という次の段階に進むべきだと思うからです。

障がいのある人に向き合う

国は障がい者および障がい児の重度化や高齢化、親亡き後に備えるために、重症の障がいに対応できる施設の建設を進めています。国の方針を受けて、真誠会でも重症の障がい者および障がい児のための多機能拠点整備型の施設設立を計画し、現在、賛同の署名を集めています。

私がこれまで注力してきた高齢者福祉のノウハウを生かし、これからは障がい者福祉に全力を挙げたいと思います。障がいのある人がもっと地域で輝いてほしい。誰もが障がいのある人に対して愛情や優しいまなざしを注いでほしいと願っています。私たちがこの会を通じて認知症について学び、話し合い、助け合ってきたように、障がいのある人に向き合っていきましょう。

2019年は共生社会に向かってスタートする年にしたいと思います。真誠会が運営する8カ所のオレンジカフェを「共生カフェ」にし、認知症の人だけでなく、障がいのある人も話し合いや相談ができる場にしていきます。

この会場のオレンジサポーターの皆さんが共生社会を目指して、地域全体のサポーターとして活動すれば、大きな力になるはず。サポーター以外の方も、どうか助けを求めている人に手を差し伸べてください。

この弓浜地区から、共生社会の実現に向けた活動を米子市に、鳥取県全体に、そして全国に発信していきましょう。

シンポジウム

各地区における地域ケア会議、地域包括ケアの現状

シンポジウムでは、弓浜地区の5つの地区の代表者が、各地区の地域ケア会議の現状や取り組み、課題などを発表しました。



将来住みたくなる 地域づくりを

大篠津御崎自治会
会長 岡田 隆氏

大篠津ケア会議では、まず当地区の今の課題を知る必要があると考え、全世帯にアンケートを取ることになりました。来年春を目指してアンケートを送り、その結果を踏まえて支援体制づくりなどに取り掛かりたいと思います。



2年目の夢農園 広がる活動の輪

崎津地区社会福祉協議会
会長 矢倉 検治氏

地域ケア会議では、重点活動の一つに見守り活動の強化を掲げ、ネットワーク形成や、認知症の早期発見・早期対応のための仕組みづくりを検討したいと思っています。2年目となる「崎津活性化プロジェクト夢農園」も、活動の輪が広がっています。



ケア会議新聞全戸 配布で活動周知

和田地区社会福祉協議会
会長 安達 優氏

地域ケア会議が関わる活動は、いきいきサロン、綿づくりプロジェクト、ふる里オレンジカフェ、認知症サポーター養成講座などに取り組み、「ケア会議新聞」を全家庭に配布して活動を周知しています。



自治会あなたも 参加、私も実践

富益地区自治連合会
副会長 永見 修司氏

富益地区自治連合会は、11月に認知症検索模擬訓練を行い、175人が参加しました。一過性の訓練としないで、継続していくことが大切で、「自治会活動、あなたも参加、私も実践」を目指したいと思っています。



災害に備え、 支え愛マップ作成

河崎御建自治会
会長 井原 純一氏

御建自治会の組織には、災害に対応した自衛消防団があります。自衛消防団があるといっても、いざというときに頼りになるのは地域の皆さんの支え合いと助け合いです。支え愛マップの必要性を強く感じ、現在、マップの1日も早い完成を目指しています。

鳥取県立養護老人ホーム皆生尚寿苑の承継について

鳥取県立養護老人ホーム皆生尚寿苑は2019年4月1日より社会福祉法人真誠会が運営することになりました。真誠会は、特別養護老人ホームピースポート／定員90名(短期入所含む)(大崎)と地域密着型の施設／定員30名(短期入所含む)(皆生)の特別養護老人ホームを持っていますが、“特別”の付かない養護老人ホームは初めて経験する施設です。

この施設は定員140名、建物は鉄筋2階建て、建築面積約1330坪、敷地面積約3000坪の大きな施設です。

今までは県立養護老人ホームを社会福祉法人鳥取県厚生事業団が運営されていましたが、4月からは真誠会の運営になります。基本的にサービス内容は変わらないのですが、真誠会は純粋な民間法人ですので、民間の知恵、民間の良さを出して、今までに負けないような運営ができるように努力をしたいと思っています。

ちなみにこの時代の変化を具体的に表現するために、施設の名称も養護老人ホーム真誠会：皆生エスポワール(希望という意味)に変更する予定です。

これで真誠会がカバーする福祉の領域がさらに増え、社会に貢献できることを喜んでおります。

養護老人 ホームの 豆知識

養護老人ホームとは、65歳以上で身体的・精神的または経済的な理由などにより自宅での日常生活が困難な方を対象にした施設です。入所するには地方自治体の審査を受け、措置判断が必要となります。

真誠会創立30周年記念

第22回ホスピタウン交流会in米子 2018



真誠会、にしくまもと病院(病院長 林 茂先生)、真星病院(病院長 大石 麻利子先生)、そして個人として倉橋 卓男先生(公立八鹿病院 救急部長・総合診療科 部長)は、強い絆で結ばれ、毎年秋に各病院持ち回りでホスピタウン交流会を開催しています。本来なら、今年はにしくまもと病院での開催になりますが、真誠会が創立30周年記念ということもあり、平成30年11月10日に、平成29年に完成した日野原・小田記念ホールにて開催されました。

第一部交流会では、林 茂先生「にしくまもと病院とホスピタウン交流会」、大石 麻利子先生「暮らしを支えるまほし会 ホスピタウン仲間と共に」、倉橋 卓男先生「フレイル予防に対する養父市の取り組み」の発表がありました。そして、小田理事長は「医療福祉複合体真誠会の過去、現在、未来」というタイトルで記念講演を行いました。

にしくまもと病院、真星病院とも、病院長以外に6~7名のスタッフも来設され、講演後は、真誠会スタッフとの意見交換会を行いとても盛り上がりました。第二部交流会は、大山の真誠会ゲストハウスにて懇親会を行いました。

ホスピタウン交流会は、友情の確認と、またお互いの病院からの学びがあります。そして互いに励ましあって、次回のホスピタウン交流会で再会することを誓いました。

本年は、にしくまもと病院で第23回のホスピタウン交流会が開催されます。



左から 大石先生、林先生、小田理事長、倉橋先生

第9回 オールジャパンケアコンテスト

~介護の質の向上と地域との繋がりを目指して~

平成30年10月13日に第9回オールジャパンケアコンテストが米子コンベンションセンターで開催され、真誠会から4名の介護職員が参加いたしました。コンテストでは全国から集まった120名の介護現場に携わる職員が、6分野2部門に分かれ介護技術を競い合い、研鑽をつみました。その中で真誠会からは 通所リハビリテーション真誠会 田邊明日香さんが、排泄分野A部門(経験年数5年以上)で、「優秀賞」に選ばれ表彰されました。

排泄分野
A部門
優秀賞



声掛け、特に促しや寝る事に気がつけました。

脳の活性化を目指して!

シナプソロジーインストラクター3名

合格

平成30年11月に、真誠会健康運動指導士3名が、シナプソロジーインストラクター資格を2日間の研修を受け試験に合格しました。シナプソロジーとは、「2つのことを同時に行う」、「左右で違う動きをする」といった普段慣れない動きをすることで、脳に適度な刺激を与え、活性化を図ります。意力が高まり、判断力が早くなる等の脳機能の改善とともに、爽快感が向上し、疲労感や抑うつ感が低下する等、心理面における効果も立証されています。

現在、真誠会健康クラブ、地域でのサロン活動、各地区の公民館などの運動教室で体験できます。私たちは、一人でも多くの方に、多くの効果が期待できるこのプログラムの楽しさを伝えていきたいと思えます。



通所リハビリテーション
弓浜ゆうとびあ
事業所長
山崎 慎吾



介護予防センター
真誠会
事業所長
澤田 健太



米子市
弓浜地域包括
支援センター
砂原 仁

平成 30 年度地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」



ドイツでの海外短期研修を終えて

社会福祉法人真誠会 総務課長補佐・真誠会ホスピタウンレジデンス
事業所長 竹下 将史



この度、内閣府の事業である、平成30年度地域課題対応人材事業「地域コアリーダープログラム」の高齢者分野の9名に選ばれドイツに行ってきました。真誠会としては、この内閣府の事業に平成26年から5年連続でこの事業に参加させて頂きました。

ドイツでは、ベルリン、ドルトムント、ボンの3都市を訪問し、11箇所の視察とホームステイを行いました。

ドイツで1番印象に残っているのは、ブランデンブルグ州にあるヌーテタル多世代ハウスです。そこは、子どもから高齢者まで様々な世代の方々が一緒に利用できる交流型施設で、地域の住民がそれぞれに役割を持ち支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティがありました。日本には各地に、公民館、コミュニティセンター等の様々な施設があります。ドイツの多世代ハウスを視察したことで、日本において各地域の特色や環境等も配慮しながら、子どもから高齢者まで一緒になって取り組めるプログラムを、官民一体となって取り組むことも重要ではないかと感じました。

また、国(ドイツ)や地方自治体が目指すビジョンや各地で行われている取り組みを知ることで、日本の公平な制度や日本人の特性など日本の良さに気付くこともできました。

この内閣府の事業は、青少年分野、障がい分野、高齢者分野と3分野で構成されており、それぞれの分野が独立したものではないことを表面では理解しながらも、他分野の方との交流することによって深く学ぶことができ、この派遣で得た仲間・ネットワークは私の宝物となりました。今後の社会活動に還元するため、お互いの連携を絶やすことなく切磋琢磨し合っていきたいと考えます。



ドルトムント市で日本の現状を説明



多世代ハウス

真誠会アカデミー賞

個人賞



個人グランプリ 松井由博

個人グランプリは、社会福祉法人松井由博 総務課職員が経営貢献に尽力し受賞しました。

団体賞



介護老人保健施設ゆうとぴあ職員
みんなで力を合わせてグランプリ受賞できました

真誠会合同忘年会で、毎年恒例の真誠会アカデミー賞の表彰がありました。アカデミー賞は、真誠会の発展のために尽くした個人と団体(事業所)に贈られます。

団体賞(事業所)は介護老人保健施設ゆうとぴあがグランプリを獲得し、業務の合間に河崎統括施設長の指導のもと、研究に取り組み専門職としての質の向上を図りました。

認知症行方不明者 対応訓練

和田町

不審者情報及び認知症徘徊 発生時における見守り協定

児童の安心・安全を守ります

平成30年11月14日、和田町で認知症行方不明者対応訓練が行われました。和田ふる里オレンジカフェでは、地域の方を対象に、真誠会のキャラバンメイトが認知症サポーターを育成しています。今回の訓練では、行方不明者を発見した際の対応や連絡の仕方について訓練されました。

当日は約120名の地域の方々が参加され、「養成講座で学習をしていたが、マニュアル通りにいかない」「発見した時にどうい声かけをしてよいか胸がドキドキした」また、行方不明者役をされた方は「知らない人に声をかけられると緊張した」「大勢で囲まれると声が出なかった」「第一声は、どこから来たの?と聞かれるより、こんにちはと声をかけられるほうがよい」などの意見が聞かれ、養成講座では学べなかったことを訓練を通して体験されました。



こんにちは。
どうされ
ましたか?

認知症行方不明者対応訓練後に、和田地区自治連合会と社会福祉法人真誠会で子どもを見守る協定を結ぶための調印式が行われました。真誠会は和田町をはじめ弓浜地区で多くの職員が働いています。真誠会の送迎車にドライブレコーダーを搭載していますので、事件・事故が起きた際にはすぐにそのデータを提出し、早期解決に結びつくよう協力致します。



和田地区自治連合会
田邊忠雄会長(左)と
小田理事長(右)

和田地区自治連合会から
感謝状をいただきました

看護小規模多機能型居宅介護 リニューアル

この度、より快適にそしてより安心して在宅での生活を続けていただけるよう、平成30年11月15日にリニューアルいたしました。

ふる里は平成18年に小規模多機能として開設し、平成25年9月より複合型施設となりました。その後平成27年4月法改正により看護小規模多機能型施設と名称変更しました。

建物はオープン当初より大きな変更をせず高齢・重症化に対応してきましたが、ベッドスペースをこれまでの約3倍に拡張し、ベッド台数も大幅に増設しました。ベッドスペースに隣同士のスペースをゆったりととりながら5台のベッドを設置し、移動式のパーティションでプライバシー保護もしっかりと行えるよう配慮してあります。個室も2部屋確保しており、万が一の際の感染対策や急な体調変化にも対応できる施設に生まれ変わりました。



ベッドを5台配置し、利用中に休んでいた
ける環境にしました



照明器具もLEDに変更し明るく開放的
になりました

呼吸リハビリを学んで

真誠会セントラルクリニック 看護師 角田 直子

平成30年12月6、7日の2日間、セントラルクリニック看護師2名、老人保健施設ゆうとぴあ看護師1名、理学療法士1名計4名で市立秋田総合病院リハビリテーション科におられる高橋仁美理学療法士のもとへ呼吸リハビリの研修に行ってきました。市立秋田総合病院は病床数374床で急性期、慢性期・地域包括ケア病棟があります。

今回リハビリテーションの実際セラピスト他多職種との関わりなどの場面を見学しました。リハビリといっても用途は様々であり、一般病棟、外来はもちろんICUでのリハビリ、小児へのリハビリ、言語聴覚士による食事介助、嚥下造影検査、退院前カンファレンスなど様々な場面でセラピストが関わっていました。

呼吸リハビリでは、排痰法や呼吸介助法、呼吸器管理など医師、看護師とセラピストが密接に関わりをもち、多職種で情報共有し個別的な目標を掲げリハビリを実施されていました。病棟では専任の理学療法士が体位変換法、ポディショニング、ヘッドアップ、体位ドレナージ法など看護師に直接指導し、看護師の意識を高める努力がなされていました。

今回の研修で、医療者は患者のできる能力を引き出し、生活に使うADL能力を落とさないようにすることが使命であると改めて感じました。特別なリハビリを行うことではなく、患者の生活動作をアセスメントし能力を奪うことなく関わっていく必要があります。肺炎などの合併症を予防するためには「早期離床」を行うことが重要となります。真誠会においても職員に対し呼吸リハビリの伝達講習を実施しました。今後、「早期離床」「呼吸リハビリ」に力を入れ、呼吸リハビリチームが中心となり一丸となって肺炎、合併症予防に努めていきたいと思えます。



真誠会職員に向け、肺理学療法を実践も交えて伝達しました。



呼吸介助法を実際に訓練している様子

輸送機で患者を避難！

原子力
防災訓練

平成30年度の鳥取県原子力防災訓練が、10月30日に鳥取県西部地区各所で行なわれました。

医療法人真誠会では、セントラルクリニック入院患者を鳥取県立中央病院まで救急搬送する訓練を行いました。原子力災害が発生した時には入院患者を安全な地域に避難させる必要があります。そのため、病状の重い入院患者をいかにして安全に避難させることが出来るかを考えて訓練を行いました。今回は陸上自衛隊の協力を得て、最新式のC-2輸送機に搭乗しての避難訓練を実施しました。

今年度、介護老人保健施設ゆうとぴあに放射線防護対策工事が行われ、ゆうとぴあが災害発生時の一時避難所となります。患者・利用者および地域住民の災害時の拠点施設となるよう、定期的に災害対策訓練を行ってまいります。



日野原・小田記念ホール イベント紹介

私の手作り作品展

出展者 門脇 成枝さん

平成30年12月1日～12月5日

着物や羽織をリメイクして思い描いた気持ちをリフォームドレス、洋服や小物バックなどの作品にしてみました。どれもが世界でただ1つ、オンリーワンの作品展です。



河崎地区 社会福祉協議会 合同コンサート

平成30年12月13日

ハーモニカボランティアの演奏にあわせて、懐かしい唱歌をみんなで歌いました。



ゴスペルオーブ 歌を楽しむ ふれあい音楽会

平成30年12月20日

毎月最終木曜に開催されているふれあい音楽会。12月はクリスマスに合わせて開かれ、ゴスペルオーブさんと一緒にクリスマスソングで楽しみました。



山陰少年少女合唱団 リトルフェニックス クリスマス合唱会

平成30年12月22日

国内のみならず、海外での公演も多く行っている合唱団「リトルフェニックス」の天使の歌声が響き渡りました。



鳥取県初

真誠会が 鳥取県介護人材育成事業者 として認証されました

鳥取県は、介護人材確保対策の一つとして「鳥取県介護人材育成事業者認証制度」を創設しました。医療法人・社会福祉法人真誠会は、平成30年12月12日、県内事業者で初めて鳥取県から認証を受けました。認証事業者は鳥取県のホームページで公表され、人材育成に力を入れている介護事業者であることが認められます。真誠会は、これからも介護職員が仕事に対するやりがいを感じて安心して働ける職場作りを目指します。



社会福祉法人 真誠会



医療法人 真誠会



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

早いもので30年

早いもので今年で開業して30年になります。よくやったなアーというより、いつのまにか30年たったなアーという感じです。前にも触れましたがボクは地元の出身ではなくて、長崎県の生まれです。そのよそ者の人間が米子の人に可愛がって貰ってるとしみじみ思います。

年取って来ると、ふとした時に自分のルーツを振り返ってみたいくなります。何年か前に書きましたが、ボクの父は佐賀県の嬉野町とう所の山あいの小さな部落の出です。嬉野町は静かな温泉町で鳥取県で言えばちょうど三朝温泉に似ています。そして父が生まれた小さな部落はなぜかほとんどが辻田姓です。小さい頃、なんでこんな辺鄙な部落に辻田ばかりいるのか不思議でした。そのルーツは今から400年程遡ります。長崎からこの地にキリシタンの信徒が逃れてきて住み着いたのが由来です。でも、そこにも追手がやってきて、踏み絵を踏ませて改宗しない者は打ち首になりました。いまでもその人達を弔う首塚が残っています。一方ボクのご先祖さんたちは踏み絵を踏んでくれました。生き残ってくれたのです。本人にとっては死ぬより辛いことだったと思います。でもそのお陰で今ここにボクが居るんです。その話を知った時ボクは心の中で叫びました。「ご先祖の皆さん、ありがとうー。あなたがたが生きてくれたおかげでボクが居るんです。ありがとうー」

時代が下って明治の世になって苗字が許されるようになった時、かつて自分たちの先祖がキリシタンだったことを後の世まで伝えるために苗字に「十」の文字を入れて「辻田」になったと聞きました。

時々この話をふと思い出します。日々小さなことで悩んだり、文句言ったりしてる自分を見たらご先祖さまはこう言うでしょう。「何を悩んでる。生きてるだけで十分だろ!」

今年も頑張るぞ。



2019年 初 春



いえはら歯科
院長 家原 猛

新年あけましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。平成も余すところ数か月となりました。今年はまさに新たな時代を迎えるスタートの年と言えるでしょう。新たな元号への興味は尽きませんが、2020年東京オリンピック・パラリンピック、そして2025年大阪万国博覧会と、大きなイベントが近年予定されています。イベントに牽引される形で社会は動いていくのでしょうか。その陰で2025年問題と言われた団塊の世代が後期高齢者となる流れの中で、社会はいかに変化し、変容して行くのでしょうか。21世紀は心の時代と言

われてスタートした事を思い出します。元気な高齢者達がたくさんの場面で活躍し、アクティブシニアも多くなるのでしょうか。いえ、決して高齢者ばかりが活躍する訳ではないでしょう。日本の社会は、世界は、より一層多様化する人の人生を寛容に受け入れ、より成熟し、豊かになるのでしょうか。

昨年暮れ、Queenのボーカル、フレディー・マーキュリーの話題の映画「ボヘミアン・ラプソディー」を見ました。人々の多様な生き方を認める世界に少しずつなってきたこのタイミングで作成されたように思われます。自らの感性にまっすぐに、熱く力強く生きた彼の人生。同じ時代を生きてきた者として、元気づけられました。

それぞれが楽しい友人、仲間、家族と共に過ごす掛け替えのない時間を大切にすること。心身の健全性、バランスを上手に保ち、元気で明るく楽しく暮らすこと。に尽きるのかもしれませんが、自分らしく、また、きらりと光る1年になるように。

皆様にとっても今年が倅多き1年となりますように。

新年のご挨拶 ～本年も



介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ
施設長 五明田 孝

老人病科の創設について

平成最後の年になり新しい次代に向けた新年号が待たれます。

超高齢化社会を迎え、昨年、100歳以上が6万7千人で平均寿命は84歳と、人生90歳おも迎えようとしています。後期高齢者も20%を超えようとしています。大都会の病院に比べてお年寄りの占める割合が多く見られます。米子地方の病院に小児科はありますが、お年寄りを専門に扱う老人科はありません。

昨年、老人保健施設管理医師研修会に出席し、老年医学会の専門家より話しを聞く機会がありました。多く考えさせられることがありました。

先ず多くのお年寄りには老化を伴っていること、多病と多様性、認知機能障害と精神症状を持つこと、フレイル状態にあること等、高齢者の病気の特徴を念頭に置くことでした。たとえば血圧はやみくもに下げないこと。血糖値は少し高めにおくこと。薬物は有害事象になることから出来る限り減らし6剤以下にすること、眠剤は転倒、認知症への影響を考慮して最適な物にする。

成人と高齢者の病態についてみると大変な相違が見られます。多くのが治癒を期待出来ない慢性疾患をもつ人が多く、治癒を目指したやみくもの治療より症状緩和が重要と思われます。専門知識を備え経験を積んだ老年病専門医の育成が求められています。



介護老人保健施設
ゆうとぴあ
統括施設長 河崎 雄司

明けましておめでとうございます

本年も宜しく願い申し上げます。

昨年は老健ゆうとぴあ利用者の皆様、真誠会の職員の皆様にお世話になりました。有難うございました。また、小田理事長先生にはいろいろご指導いただきましたが、昨年末には先生より真誠会で呼吸リハビリを強化するようにとのご指示をいただきました。さっそく12月に、強化の一環としてセントラルクリニックと老健ゆうとぴあの看護師、理学療法士の方々に呼吸リハビリの研修のため、秋田県の市立秋田総合病院へ行っていただきました。

市立秋田総合病院には我が国の呼吸リハビリをリードされておられる、多くの呼吸療法士の先生方がいらっしゃいます。研修された真誠会職員の方々が、今後も秋田の先生方と交流され、真誠会の呼吸リハビリを一層発展させていかれるものと思われます。私も呼吸リハビリのチームに加わらせていただき、真誠会を利用される皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。本年も何卒ご指導のほど宜しくお願いいたします。



よろしくお願ひ致します～



医療法人真誠会常務理事
社会福祉法人真誠会理事
前田 浩寿

新年の抱負

真誠会は今年4月、県立の養護老人ホーム皆生尚寿苑の運営を引き継ぎ、「真誠会エスポワール(希望)」として運営を開始します。人材不足と言われる医療・福祉業界の中で、私たちが昨年に続いて、養護老人ホームという新たな分野に挑戦できるのは、真誠会のサービスを多くのご利用者様に支持して頂き、また、そのサービスを支えるスタッフが一丸となって継続し努力してきたからこそと、全ての真誠会に係る皆様に対して感謝の気持ちでいっぱいです。ご期待に沿えるように本年も努力していきたいと決意を新たにしております。

今、国は、共生社会の創設に力を入れています。高齢者だけでなく、児童も、障がいがある方も一緒になって住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域の人々と私たち事業者が力を合わせて、様々な課題に対処していかなければなりません。

現在、鳥取県に申請している日中サービス支援型共同生活介護「希望の星」、多機能型通所「銀河」の障がい者サービスの設立に向けては、昨年、たくさんの地域の皆様からご支持を頂きました。

障がいがある方のご家族様は、その介護のために平均睡眠時間が4時間未満であったり、今まで従事していた仕事も辞めて介護に携わらなければならないという状況があることはあまり知られていません。全ての人々がいかなる状況にあっても、私たち医療法人、社会福祉法人が皆様の生活を支えることが私たちの責務と考えております。本年も引き続き、皆様のご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



介護老人福祉施設
ピースポート
施設長 上村 真澄

猪突猛進

新年明けましておめでとうございます。

昨年は全国的に災害の多い年だったように思います。近隣では岡山県そして広島県が大きな被害を受けました。幸い私たちの鳥取県西部は「大山さん」のお陰でしょうか、被害というほどのものはなかったように思います。今年は災害のない穏やかな年となるよう願っています。

今年の干支は猪です。猪は、狙いを定めたらまっすぐ突っ走る、「猪突猛進」と言いますが、どこか似てませんか?「真誠会」?

真誠会は「ホスピタウン構想」の実現という目標を目指して走り続けてきました。最近では、小規模多機能型居宅介護施設『浜の絆』、地域密着型特別養護老人ホーム・デイサービスの『皆生ピースポート・ローズガーデン』、サービス付高齢者向け住宅『ホスピタウンレジデンス』を建設し、それぞれ実績も上がってきました。

今年は、養護老人ホーム『真誠会エスポワール』の開設、それと障がい者事業に乗り出します。新たな目標を目指してまっすぐに突っ走りましょう。でも、前をよく見て!!

新年のご挨拶 ～本年も



医療法人・社会福祉法人
真誠会
看護・介護統括部長
俵 智恵美

地域包括ケアの集大成の年

昨年は診療報酬、介護報酬のダブル改定でどう乗り切るか、事業所長達と共に加算の取得のための業務整理や営業方法について沢山の勉強をしました。そのひとつに看護師の効率的な人材活用を考えて通所介護事業所の看護師を訪問看護ステーションへ配置しました。その効果として訪問看護の利用件数が増え、経営的な面でも成果が上がりました。

また、新しく開所された「皆生ピースポート」「皆生ローズガーデン」「浜の絆」「ホスピタウンレジデンス」も順調に成果をあげることが出来ました。これも事業所長を始めたとした職員皆の結集の賜物と大変誇らしく思います。

昨年の8月には第3回中国地区介護老人保健施設大会in鳥取において「真誠会における人材確保と定着」のテーマでポスター発表の機会をいただきました。

真誠会のこの4年間で強化できた積極的な実習生の受け入れや個々の職員の強みを活かした人材育成の取り組みなどで職員定着率の向上に繋がったとの報告に大変、良い評価をいただきました。

さて、今年の真誠会は本格的な地域包括ケアの集大成の年となります。昨年から少しずつ初めている障がいサービスの勉強や資格取得のために本格的に実践していき共生社会に適應できる人材を育成していきたいと思えます。

また、4月からは皆生エスポワールの運営も始まり職員数がさらに増えますが、規模に負けない職員の成長を引き続き尽力していきます。

今年はイノシシ年ですがイノシシで思い浮かぶ言葉と言えば、「猪突猛進」。目標に向かって、まっすぐに突進していく、そんな勢いのある年にしていきたいと思えます。

今年（新年）の決意



社会福祉法人真誠会
地域支援部長 石原 慎吾

一期一会 日々お会いする方々との出会いを大切に絆を紡いでまいります。



介護老人保健施設ゆうとぴあ
事業所長 斎木 眞由美

介護老人保健施設（老健）は、介護が必要な方にリハビリ等を提供し在宅支援・在宅復帰を目指す施設です。ゆうとぴあは、昨年からは**超強化型老健**となりました。今年はさらに**質の高いケアを提供し、在宅復帰**に力を入れます。



真誠会セントラルクリニック
事業所長 西川 悦子

“早期離床と呼吸リハビリ強化の年”
肺炎予防、新規褥瘡発生ゼロ、ADL低下させないため一層強化していきます。



地域密着型介護老人福祉施設皆生ピースポート
リハビリ強化型通所介護皆生ローズガーデン
事業所長 佐平 登志美

「快適な暮らしの提供、地域とのつながりを大切にします」

～もっと身近に、ぐっと快適に～
地域との繋がりをさらに深め、ご入居者と地域の方々の交流を図っていきます。



よろしくお願ひ致します～



介護老人福祉施設ピースポート
事業所長 亀澤 正子

買い物、墓参り、また数年ぶりの帰宅など、**ご利用者の願いを叶えるお手伝い**をして、沢山の笑顔と感謝を頂きました。今年も職員一同頑張ります。



訪問看護ステーションネットケア
事業所長 神田 典枝

医療的なケアが必要な子どもからご高齢の方まで、自宅で過ごしていただけるように私たちが支えます。



真誠会医療福祉連携センター
センター長 小山 雅美

真誠会医療福祉連携センターは、**かかりつけソーシャルワーカー**を目指します。

いかなる相談にも応じます。とことん一緒に考えます。きちんと専門機関へつなぎます。



通所介護真誠会セントラルローズガーデン
事業所長 道祖 正紀

活動と参加を基本とし、**在宅生活の継続**が出来るように支援させて頂きます。



介護老人保健施設ゆうとびあ
介護係長 山根 賢一

これからの福祉は地域で支えていくことが言われています。老健には多くの福祉専門職がいます。施設の外に出かけその**知識・技術を地域へ貢献**できるよう活動します。



介護予防センター真誠会
事業所長 澤田 健太

運動で身体と心を元気にして、**健康寿命を伸ばしましょう!**



介護老人保健施設ゆうとびあ
事業所長 岡田 修治

下肢筋力、生活動作の向上に更に力を入れ、**地域になくてはならない在宅復帰・在宅支援施設**を目指します。



通所リハビリテーションゆうとびあ
事業所長 小磯 孝則

利用者様の「やりたい」「出来なくて困っている」という思いに寄り添い、**多職種共同で支援**します。



リハビリテーション科
課長 大西 博巳

「病院から施設から在宅」と切れ目のないリハビリテーションを提供し、「**自立支援**」「**予防**」に取り組みます。



通所リハビリテーション真誠会
事業所長 森 貴広

「**したい活動からできる活動へ**」生活リハビリや音楽療法を用いて、利用者様・家族様・地域の皆様をサポートできる事業所を目指します。

新年のご挨拶 今年（新年）の決意



通所リハビリテーション弓浜ゆうとぴあ
事業所長 山崎 慎吾

「もっと動ける」「もっとできる」利用者様・家族様の思いを実現できるように、職員全員で全力サポートしていきます。



小規模多機能型居宅介護浜の絆
事業所長 山下 剛志

「住み慣れたご自宅や地域で、これまでの暮らしをそのまま続けていく」を目標に、ご利用者や地域の方との絆を大切に職員一同頑張ります。



ケアハウスリバーサイド
事業所長 米谷 正

自分を大切に生活ができる「ゆとりの空間」を提供、自分のための「豊かな時間」が持てるよう支援いたします。



脳活性クラブ米子真誠会（童謡の里）
事業所長 福島 貴雄

「お一人お一人の心に寄り添う」童謡の里の理念のもと、御利用者様、御家族様の支援・サポートをさせていただきます。今年も職員一同頑張ります。



グループホーム青松庵
事業所長 秋田 将宏

豊かに老いる青松庵と掲げてあるように、入居者の方へ尊敬と愛情を持ち、心豊かに生活していただけるように職員一同取り組んでいきます。



脳活性クラブ弓浜真誠会（若竹庵）
事業所長 杉谷 めぐみ

高齢者、障がい者、子ども、地域住民など世代や背景の異なる人々が共に暮らしやすい生活を送っていただけるよう橋渡しをしています。



グループホーム椿庵・桜庵
事業所長 赤井 康人

開所してから丸5年、皆様に感謝と、今後も地域の一員として豊老の椿庵桜庵へ



富益しあわせデイサービス
事業所長 中田 純平

名前の通り、誰もがしあわせになれる空間になるよう精一杯努力します。また、その「しあわせ」を地域の方へも届けていきたいと思ひます。



看護小規模多機能型居宅介護真誠会ふる里
事業所長 花房 幸雄

介護・看護の拠点として地域の皆様に安心して生活して頂けるよう、職員一同取り組んでいきます。



通所介護弓浜ゆうとぴあ
事業所長 角田 靖

「いつまでも自分らしく輝けるように」皆様との出会いを大切に、自分らしく輝ける時間、場所を提案させていただきます。



～本年もよろしくお願ひ致します～



通所介護真誠会ローズガーデン
事業所長 松井 智

地域との繋がり、顔と顔を大切にし、地域の皆様にローズガーデンを知って頂ける機会を多く作り、**信頼される事業所**を目指します。



居宅
ケアプランセンター
弓浜真誠会
事業所長
松田 久美子



ケアプランセンター
セントラルローズガーデン
事業所長
竹内 奈緒美



ケアプランセンター
東山ローズガーデン
事業所長
森脇 美佐緒



居宅介護支援事業所
真誠会
事業所長
大宮 紀子

河崎、大崎、西福原、富士見町の4つの事業所で、それぞれご相談いただいたご利用者の方の意向に沿った対応をさせていただけるよう連携を図ります。**介護、リハビリ、認知症など、お困りごとがございましたら、いつもお気軽にご相談ください。**



訪問介護弓浜真誠会
事業所長 山田 千佳

「ご利用者様の持っている力を引き出し、**安心した在宅生活の継続維持に努める**」ことを目標に、今年も元気に笑顔で訪問を行なってまいります。



医療法人真誠会
総務課長 長谷川 俊彦

米子支援部は、職員が**安心して業務に精励できる環境づくり**をサポートします。



定期巡回随時対応型訪問介護看護真誠会
事業所長 福島 知義

ご利用者様が「**住み慣れた家で、いつまでも生活を継続できる**」ことをモットーに、今年も職員共々努めてまいります。



有限会社メディカルフロンティア
生活支援隊 課長 長山 誠司

この地域において、**オンリーワンではなくナンバーワン**の福祉用具・介護用品の販売貸与事業所を目指します。



真誠会セントラルレジデンス
事業所長 佐々木 雄史

ご入居者さまの暮らしに**寄り添い安心・安全な生活**ができるように共に歩んでいきます。



社会福祉法人真誠会 障がい者施設設立準備室
顧問 八木 啓子

障がいのある人が、秘めている多様な能力を多くの皆さんに知っていただけるよう、**当事者、保護者、支援者が一つになって努力する年**にしたいと思います。



社会福祉法人 真誠会総務課長補佐
真誠会 ホスピタウンレジデンス
事業所長 竹下 将史

人と人の**繋がり**の大切さと人への**感謝の気持ち**



社会福祉法人真誠会 障がい者施設設立準備室
室長 伊澤 寿高

将来、障がいのある人が、安心して地域の中で暮らせる**医療・福祉の充実した拠点施設の建設**を目指します。



透析施設オアシス
事業所長 加瀬部 寛

今年も**安心・安全な透析療法**を提供いたします。

平成最後 真誠会 ゆく年くる年

弓浜
ホスピ
タウン

第17回ふれあい文化祭

弓浜ホスピタウンに約500点の作品が集まりました。オープニングセレモニーでは崎津小学校3年生、4年生が合唱と合奏を披露し、若竹庵の利用者が作られた野菜を使った豚汁が振舞われました。



小学生といっしょに作品を見まわりました。



通所リハビリテーション弓浜ゆうとびあの利用者と職員の顔写真を使ったモザイクアート!

米子
ホスピ
タウン

真誠会セントラルクリニック クリスマス回診

院長がサンタに扮しクリスマス回診をしました。患者さんを励まして笑顔溢れる回診となりました。



米子中央
ホスピ
タウン

真誠会セントラルローズガーデン 餅つき大会

平成30年を無事に過ごせたことに感謝し、今年もいい年でありますようにと祈願しました。



つきたてのお餅は
やわらかいわ〜

脳活性
クラブ
若竹庵

第8回 崎津夢農園 青空市場

年末のあわただしい12月27日に、青空市場が開催されました。

地元の方が提供して下さった野菜、崎津夢農園で収穫した野菜のほか門松の販売もあり、おかげさまで全て完売いたしました。



利用者が丹精込めて作った採れたて野菜



高さ130cmもある立派な門松です